

第3回 恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画策定委員会 会議録

日時:令和5年1月23日(月) 14時00分～16時00分

場所:恵那市消防防災センター会議室

出席委員:坪井委員(委員長) 加藤委員 遠山委員 岩井委員 伊佐地委員 長谷川委員 立尾委員
野戸委員 板津委員 西尾委員 古山委員 西部委員 山田委員 石原委員 井戸委員
小林委員 小木曾委員

欠席委員:三宅委員 矢頭委員

事務局:恵那市社会福祉課 課長 沼田

恵那市社会福祉課 課長補佐 酒井

恵那市社会福祉協議会 次長兼地域福祉課長 加藤

恵那市社会福祉協議会 地域福祉課主査 田口

(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 鈴木 ※ご確認お願いします

内容: 開会

1 あいさつ

2 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について

3 今後の策定スケジュールについて

4 その他

閉会

1 あいさつ

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>ただいまより「第3回恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会」を開会する。私は恵那市役所社会福祉課の沼田である。前々回9月30日と、前回12月22日にこの計画の骨子、素案のご協議をいただいた。本日はこの素案の地域福祉、中でも自殺対策や13地域ごとの地区計画を中心にご議論いただければありがたい。</p> <p>これまでのご意見には、特にタブレットやスマホといったデジタル活用をしっかりと取り入れることや、外国人の話もいただいた。また、全体的に中身で何をやるというところまでの規程はあるが、その後のアウトプットの視点も大事である、つくりあげた計画をしっかりと周知して行き届かせて成果のあるものに繋げていかなければとご指摘もいただいた。</p> <p>地域福祉の計画であるので、お互い様、向こう三軒両隣という話もあった。</p> <p>今回、自殺の傾向について、プロファイルとして国でまとめた恵那市の自殺の傾向を資料として配布した。これらを中心にご議論いただきたい。それでは、進行を坪井委員長にお渡しする。</p> |
| 委員長 | <p>前回、12月の会議で皆さんからいただいたご意見を加えて素案ができている。事前に送付いただいた資料をもとに、皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、ただつくって積んでおくものにならぬよう、本当に自分たちや恵那市民のためになるかどうか検討し、実行性のある恵那市の地域福祉計画・地域福祉活動計画になるようによろしく願います。</p> |

2 第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について

| | |
|-----|---|
| 委員長 | それでは「第4次恵那市地域福祉計画・地域福祉活動計画素案について」事務局から説明をお願いします。 |
| 事務局 | 資料に基づき説明。 恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画素案について |
| 委員長 | 前回いただいたご意見が反映されていると思う。恵那市自殺対策計画と併せて、ご意見やご質問はあるか。 |
| 委員 | 計画は平時であるが、災害時を考えなければならない。例えば71ページに「生活困窮者」とあるが、災害が起こると家が潰れたりして混沌とした中で生活が始まっていく。その中で、避難所、サロンの展開や各種相談コーナー等を早期に設けていただきたいと思っているが、それらはこの中には書きにくいのか。災害、罹災ということで特記して書いていくべきなのかも踏まえて、お願いしたい。避難所等での震災関連死が非常に多い。熊本地震では、地震で亡くなったのは50名、その後の避難生活で亡くなった方が200名、非常に避難所生活が過酷なものだということを含め、平時と災害時とを併記していただくとありがたいという意見である。 ゲートキーパーの話があった。10年ぐらい前に自分も研修を受けたが、その後何もフォローはなく、今どうなっているのかを聞きたい。岐阜県が主体的に取り組んでいたと思っていたが、今後恵那市でも講習会や研修会を行っていくのか。 67ページ「12 性的少数者」について、企画課と学校教育課と書いてある。現状ではおそらくなっていないと思うが、教育現場においてトイレは男子、女子、多目的になっているかをお答えいただきたい。 |
| 委員長 | 学校はどうなっているのか。 |
| 委員 | だんだんとそのような傾向にはある。 |
| 事務局 | ここまでのご意見に対して事務局よりお答えする。ゲートキーパーの件、これは国が進めているものである。恵那市では、認知症のサポーターとして理解のすそ野を広げてしっかりサポートしていこうとしているが、ご指摘の通り、ゲートキーパーは一時期、全国的に啓発が活発だった。私はこの4月からこちらに来たが、現状ゲートキーパーに対する取り組みに具体的なものがないので、しっかり周知していきたいと思う。 性的マイノリティの話があったが、学校では春からトイレに生理用品の無償配布がはじまったと思う。並行して、恵那市の人権施策の推進指針を別途この5年の見直しとしてつくりあげようとしている。アンケートを取ると、この性的マイノリティ、LGBT、更にQプラスもあるが、恵那市内では認知度が7割と非常に高く、これからの新たな課題である。特にSDGsという視点ではジェンダー平等という言葉も出てくる。トイレの話もあったが、具体的にどこまで延ばせるかわからないが、しっかり取り入れていかないといけない。特に学校でも性的自認の教育もこれから進められるということで、恵那市としても啓発やっっていくと考えると考えている。具体的な答弁にならずに申し訳ないが、以上である。 |
| 委員 | 30歳代の男性の自殺者が多いというのは悲しいことだが、中学校、高校生、大学生の自殺者が今回なかったことには少し安心した。これは、教育委員会の先生方、皆さまが努力されて、いじめやニュースになりそうな事件が恵那市ではここ数年ないということ |

| | |
|-----|--|
| | に反映されているのではないかと考えている。 |
| 委員 | 若者の自殺者のデータが恵那市では出てないとあったが、子どもたちも問題は抱えていると思うので、学校もしくは家族が早く気付く、何か変化があれば少しでも感じ取り、自殺者を出さないようにすることが必要だと思う。 |
| 委員 | 子どもが少ないということは非常に良かったと思うが、30歳代の自殺が多いことに対しての取り組みが見えない。また、数値目標について自殺死亡率を20.4から13.0以下を目標とするとあるが、国は18.5から13とある。恵那市は最初の数値が少し高いような気がするが、その原因をお聞きしたい。 |
| 委員 | 60ページの「③総合的な福祉のまちづくり」にSDGsの「誰一人取り残さない」とあり、それに基づいて66ページ「1こころの相談事業」で専門カウンセラーを設置するとある。誰一人取り残さないために、専門機関と連携して一人ひとりを丁寧に見ていくというような施策はとてもありがたいと思っている。 児童の療育手帳所持者や、障がい者の増加が20ページにグラフで示してあるように、学校現場では非常に増えている。また、21ページの児童虐待件数も増えていて、医者の見立てでは、発達障害を抱え、家庭でどのように対応したらいいか悩まれて虐待に及んでしまうというケースも見られるそうである。こういった悩んでいる家庭の相談窓口をさらに充実していくことで、先述の専門カウンセラーなどが今後いろいろなところに位置づけられていくようお願いしたい。 また、この冊子に入れられるかどうかはわからないが、恵那市が設けた相談窓口にいざ行ったとき、どのように対応が進められていくのか、悩みはどこでどのように解決してもらえるのか、体制図のような目に見えるものがあるとより安心して相談いただけるかと思った。 |
| 事務局 | 地域自殺実態プロファイルを見ていただいたが、20～30歳代の男性が国の平均値と比べて非常に増えている。3ページ中央の棒グラフを見るとわかるように、右側が国の自殺者の割合で、左側の濃い方が恵那市の割合であるが、30歳代男性、80歳代女性が恵那市ではこの5年間に限って多かった。自殺死亡率は、人口10万人あたりの自殺死亡者数である。今回、国の目標と同じく13.0という数字を目標数値として掲げた。4年前にこの自殺対策計画を策定した際の自殺死亡率は24.5であり、目標値を17.1としていた。直近の令和3年の現状値は20.4であったので、ここから約7ポイント下げ、国と同じ目標を目指すよう目標設定をした。 若者の割合が多いことを減らしていく取り組みとしては、それだけを絵に描いたような支援はないが、69ページの「③子ども・若者への支援の充実」で、「No.6 求職中の若者の就労支援の充実」がある。若者サポートステーションやビジネスサポートセンターでは、職や仕事に関する相談を受けている。15歳から39歳までの若者をターゲットとして、恵那市役所で毎週木曜日の午前、午後に相談日を設けている。昨年度実績では延べ100件ほどご相談をいただいている。先ほどお話のあった発達障がいをお持ちの方々も相談にいらっやっていて、まず始めは一般就労を目標としているが、そこに入り込めないという方についてはアルバイトや、福祉的就労など相談に応じながら、細かな対応をさせていただいており、今回項目を加えさせていただいた。他にも若者の引きこもり等の課題も出てきているので、居場所づくりなどいただいたご意見も加えていけたらと思う。 市内で発達障がいのお子さんたちが増加傾向にあるということだったが、ご承知のよう |

| | |
|-----|--|
| | <p>に全国的にも非常に増えている。特別支援学校への入校者数もどんどん右肩上がりで増えていることも聞いている。その中で、まだ公にはできないが、4月から新たに恵那市の教育委員会の中に発達相談に応じる発達相談センターという機関を設置しようという動きがある。3月の議会で正式に発表するというので、今週打合せに参加してきた。現在、恵那市には発達相談を対応する「あおば」という相談所が市民会館の中にある。また、なかなか学校に登校できない不登校の子どもたちの勉強の手伝いや、悩み事を聞く適応指導教室「はなのき」と「むつみ」の2箇所をまとめて発達教育相談センターを立ち上げようという動きである。新たに心理士、専門家を設置し、対応しようという動きもあり、教育委員会と話をして加えることができれば書き込んでいく。</p> <p>自分の相談が見える化されることは非常に有効で、今後やっていきたいと思う。なかなか周知がいきわたってなくて申し訳ないが、令和2年4月に恵那市では福祉の総合相談窓口を立ち上げ、断らない相談を徹底しようと動いている。3～40年前に比べると福祉は児童福祉、高齢福祉、障がい福祉、生活困窮等、いろいろな相談窓口が増えてきたが、そこに当てはまらない相談者や、いくつも相談場所があつてどこへ行っていかわからないという方がいらっしゃる。そういうことがないように取り組みをしている。その中で、どういった形でその方の支援をするといいか見える化していくことも大事であるので、その視点も加えたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>地域自殺実態プロファイルの2ページ「地域の自殺の特性の評価」の指標値、ランクに★がついているが、これはどういう意味なのかが全然わからないので教えてほしい。</p> |
| 事務局 | <p>評価のランクについている★の数が多いほど、この地域で自殺者が発生するリスクがあるということを示しており、恵那市の30歳代や若年者(20～39歳)では★が3つである。1ページに重点パッケージとして4つの分野を重点的に対策すべきと、国の分析が示されている。全国で取るべき重点パッケージには、実は子どもと若者は入っておらず、高齢者や生活困窮者が上に来ている。したがって、この5年間の恵那市の自殺者の特異的な状況は、子ども・若者、特に20、30歳代がリスク要因なので、ターゲットとして捉えていかないといけないと考えている。</p> |
| 委員 | <p>地域自殺実態プロファイルの2ページ「地域の自殺の概要」で、例えば男性の60歳以上で無職者同居が非常に多くなっている。独居よりも同居が多いということについて、女性もそうであるが、特に20～39歳有職者で同居がすごく多い。この辺りの分析はされているのか。</p> |
| 事務局 | <p>この概要のグラフでは、薄い色が全国平均値である。60歳以上の自殺者、特に無職者は男女ともに同居者のほうが多いという傾向にあつて、恵那市もこれに従っている。ただ、20～39歳男性、有職者同居の割合が全国の平均値からいくと恵那市は倍以上の高い値を示している。統計をみると恵那市の自殺者は昨年は10人、この5年間では53人となっているが、個別の情報は市には届かないため、統計値を基に対策を考えている。なるべくしっかり個別分析を行い、個別のケースごとに相談に応じていくのが大前提として、恵那市で発生している困りごとを総合的に考慮して、そこからの課題を導き出すということも大事かと思っている。</p> |
| 委員 | <p>21ページの高齢者虐待件数の推移のグラフについて、平成31年で大きく減っている理由がわかれば知りたい。地域包括支援センターで、平成31に28件が、令和2年に7件に減っている。</p> <p>高齢者で病気を抱えて悩んでいる人はどこの相談窓口行けばいいのか、地域包括だ</p> |

| | |
|-----|---|
| | けしかないのかと疑問に思っている。 |
| 事務局 | <p>虐待件数の経過について、これは憶測であるが、令和2年は新型コロナウイルスの影響もあってこちらに情報が届かないことがあるのではないかと思っている。</p> <p>去年の夏に国から示された自殺総合対策綱では、新型コロナウイルスの影響を踏まえた対策の推進等がうたわれている。また、特に女性に対する支援が強くクローズアップされている。</p> <p>今回、恵那市の直近5年間のプロフィールの状況を見ると重点パッケージとして女性は出てきていないが、ただこれは令和3年までの情報なので、令和4年も含めた時に女性もとなればそかも含めて対策が必要であると考えている。進行管理する中でしっかり検討していきたい。</p> |
| 委員 | <p>地域自治区としてそれぞれの地域の中で、民生委員や児童福祉委員に活動していただいている。抱える問題として、人口が減る中で独居の方が増えているという実態があるが、地域では一生懸命、月に2回以上訪問して活動している。相談窓口をたくさん設けていただいて大変ありがたいが、何回かは地域の窓口も出張して、もう少し掘り起こしをして直接ご相談いただけるとありがたいなと思っている。</p> |
| 委員 | <p>素案について、前回からいろいろと手を加えていただいととても良い出来だと思っている。SDGs は日本だけじゃなく世界的に取り組まれているものなので、恵那市ではどのように取り組んでいるかを入れたほうがよかったと思う。</p> <p>感想を2点述べる。総合相談窓口の件に対しては自分も関わっており、先ほどそこに行ったらどのような対応があるのかという意見があった。今まで行政というのは、お年寄りの相談だったら地域包括支援センターや高齢福祉課、介護保健課、障がいがあったら社会福祉課、生活困窮者の自立支援制度や、生活保護に関する部署など、ずっと縦割りであった。恵那市の総合相談窓口は、まず悩みや困りごとがあったら窓口に来てもらい、そこから適切な相談先や支援ができる機関分けていくものである。複合的、複雑な問題に対しても、あちこち相談窓口に行かせるのではなく、包括的に支援していこうという流れだと思う。</p> <p>重層的支援としてまずいろいろな相談を受けていくことが重要である。自殺に至るまでには、経済的な困窮があってどうしようもなくなったり、家庭の問題があって介護を強いられたり、ヤングケアラーなどいろいろな問題がある。そのような事情をできるだけ早急に解決していくのはとても大変だが、相談窓口やいろいろなところでできるだけ早く見つけて支援につなげることが重要だと思う。難しい問題であるが。そのためには地域の共生、地域の人の力が必要だと思う。それらを踏まえて素案をつくる必要があると思っている。現代社会は問題が多く、なかなか1つのところでは対応できないので、市役所だけではなく民間にも相談できるところを増やしていかなければならない。単なる相談だけでなく、そこからどうしていこうか、今後増えるといいと思っている。</p> <p>2点目。私は恵那市に移住してきてまだ1年少しか経っていないが、この地域がとても気に入って、好きでこういった活動をさせていただきながら過ごしている。アウトリーチ事業をする中で、地域によってまだ壁があるような気がしている。移住者を増やすという取り組みもされているのに、実際に行ってみると、地区の人じゃないからという壁を感じる。地域懇談会もやられているし、もう少し心を広くすればさらに恵那の魅力が伝わると思う。もっと移住者や人口が増え、子どもをこういうところで育てたいという方が増えてくるといいと思っている。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>自分は4年前にも、市の自殺対策計画の委員をやっていた。当時も思っていたが、この国の計画の名称が「自殺対策計画」となっているが、すでに亡くなった状態が自殺であって、自殺を防ぐ対策をするというのがこの計画の趣旨だと思うので、名前に“防止”を入れ、「自殺防止対策計画」とするといいいのではないか。</p> <p>今回は紹介できなかったが、社会福祉法の改正により、広域事業が義務付けられたため、市内の社会福祉法人 10 法人にご賛同いただき、社会福祉法人連携連絡会という組織を立ち上げ、12 月8日に総会をやった。こちらの委員の加藤さん、古山さんが会長、副会長である。今年度はフードバンク事業をやろうと、物資を入れる容器を配ってその収集をしているところである。社会福祉協議会で、公的事业で新しい取り組みを始めているところである。</p> |
| 委員 | <p>事務局から、支援学校の生徒数が右肩上がりと言った話があった。十数年前、中学部までだった特別支援学校に高等部が増設され総合化して、今は岩村町に移転した。その頃は生徒数が増加していたが、今は少子化の時代である。現在高等部には 51 人が在籍しているが、多い時は 60 人を超えている状況であった。地域の高校が定員割れをしている状況にあり、特別支援学校に行くのか、地域の高校に行くのか、中学校からの進路の選択肢があって、そこで高校を選択される方が結構いることも要因の1つであると考え。</p> <p>地域自殺実態プロフィール1ページ「地域の自殺の特徴」の背景にある主な自殺の危機経路について、先ほど「発達障がい」という言葉も出てきたが、例えば 60 歳以上で発達障がいのある方などは数字として見えてきていないだけでたくさんいると思う。障がいがあり、人間関係や失業といったことで最終的に鬱を発症している人がこの中にどれくらい存在しているのか。今後そういったことが分かれば知りたいと思った。障がいある方が占める割合が多ければ、障がいへの理解をさらに広げていかないと自殺者数を減らすのは難しいと思った。</p> |
| 委員 | <p>壮健クラブとしては自殺に関する話は聞いていないが、実際に来てもらって壮健クラブの中で活動することが心の健康につながっていると思う。そのように方針を立てているので、一定の年齢になったら壮健クラブに入ってもらいたいと思っている。</p> |
| 委員 | <p>資料を見ていると、カタカナの用語が結構入っている。例えば 72 ページ「健全に働ける職場環境づくり」の No.5 に”職員のリテラシー”とあるが、普通の人が見た場合それは何かと言われるのではと思った。65 ページ「自殺対策を支える人材の育成」に”ゲートキーパー”の研修とあるが、私はこの言葉を知らないの、文章を見るとそれらしいと思うが、ただそれが何かわからない。恵那市の文書として出すときに、誰が見てもわからないような言葉は日本語にしてもらえるとわかりやすいのではないか。</p> <p>28 ページ「恵那市福祉総合相談窓口の認知度」では、窓口について7割以上が必要だと言いつつ、半分以上が設置されたことを知らないとある。様々な大事な施策を立ち上げていただいているが、それを周知する方法、周知することが大事だと思う。施策が出来上がって終わりではなく、それを恵那市民にわかりやすく周知する方法を考え、5年後に一部だけで他が全然行動ができなかったとならないよう周知の徹底が大事だと思う。</p> <p>別添資料の自殺についても、自殺とか事故のようなことをゼロにすることは絶対に無理な話だが、少なくするのはできるのではと思う。これを見ると、全て鬱状態になってから自殺してしまうという流れになっている。最初に鬱になる原因は、人間関係や仕事など</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>いろいろあると思うが、亡くなる前がぜんぶ鬱状態だという危険経路がわかっているのであれば、鬱になった時にどう対応するかが自殺を1件でも減らす手段になるのではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>地域自殺実態プロファイルの2ページ「地域の自殺の概要」をみると、女性の60歳以上で同居と、男性20～39歳の同居が多い。女性は旦那さんと一緒に住んでいて、介護に疲れていたのかと、なんとなく想像する。若い男性も親と一緒に同居していて、いちばん多感な時期に、仕事や結婚、恋愛とかいろいろなことに迷い、鬱状態になる、自殺してしまう前に、同居者がそれを見抜いてくればいいがなかなかそれは難しいと思う。4ページ「長期的な推移」の折れ線グラフでは、だんだん減っていく傾向にあるので、自殺対策を恵那市として取り上げているのが多少影響してきているのかと思う。</p> <p>たんぼぼのことだが、実は過去に若い女性が1人自殺した。10年ぐらい前、グループホームから会社に就職をして、市内の大手の会社で働いていた。20代後半の若いきれいな子だった。会社の40歳後半の男性から結婚してほしいと言われたので、その男性にも来ていただいて、今の彼女の状況を知っているか、生活していくのに大丈夫かと話をした。大丈夫、添い遂げると言っていたが、付き合っていくうちに、知的中度の人だったが、時間がわからなかったり約束が守れなかったり、だんだん受け入れられなくなっていった。男性に時々来てもらって話をしたりしていたが、ある時から来なくなってしまった。会社に連絡しても居留守で連絡が取れなくなり、その頃から彼女の様子もおかしいと感じるようになった。お付き合いを始めた頃、必要だから携帯電話を買って欲しいとのことで、働いていたので買って使い方など教えた。その携帯電話で自殺サイト、自殺の方法や死に関する情報を見てしまったようで、ある時押し入れで電気コードを使って亡くなってしまった。朝起きてこないのでも世話人が呼びに行ったらもう冷たくなっていた。警察にも来てもらったが、そこにあった携帯電話を見て、ああこれはしょうがないですねと言われ、何がしょうがないのかと聞いたら、このような自殺サイトで亡くなる人は多いのだと聞いた。恵那市の中でも、そういうものにはまって亡くなってしまうと、死ぬうと思っていなくてもちょっと真似した程度で死んでしまうということをきちんと教えてもらわないといけない。その当時は、そういう死に方をされる人が恵那市内にもいたようで、この程度では新聞には出さないとされた。この程度とはどういうことかと思ったが、そういうことがあった。若い人、うちは女性だったが、普通の家の働いている男性でも、何かおかしいな、ちょっと近頃おかしいと話をしてみるといろいろな家庭のこと、彼女のこと、悩んでいる場面があったりする。市役所の教育委員会に組織ができると聞いたが、そこまで行って相談できるかと疑問にも思うが、ないよりはいい。いろいろな所にいろいろな話できる関係をつくっていくと良いと思う。</p> <p>たんぼぼ、グループホームでも60人ぐらいいるが、収入のある人は携帯電話を持っていて、その使い方を教えていくことをやっている。取り組みを進めるなかでだんだん自殺者数が減ってきている現状を見ると、恵那市としての施策は良いのかなと思う。地域の人が皆で壮健クラブに入っているだけでも、ゲートボールクラブに入っているだけでもよい。私の母は、伊佐地さんにゲートボールでお世話になって、それがあったから元気に生きてこられてありがたいと思っていた。お年寄りにはそういうこと、子どもにはまた違った部活など、どこかで息が抜ける何かを考えていってもらえると良いと思う。</p> |
| 委員長 | <p>たくさんのご意見をいただいた。61ページ「第5章恵那市自殺対策計画」について、恵那市だけでも“自殺・防止対策計画”ぐらいにさせていただくといい。自殺をしてしまった</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>後のことだと思って中を見ると防止のことが書いてある。表題に“防止”を入れて、国に合わせないといけないならできないが、もし事務局で相談して良ければそうしていただいても良いと思った。貴重なご意見をいろいろ反映していただきたい。</p> <p>それでは次に、地域福祉活動計画について社会福祉協議会から説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>資料に基づき説明。</p> <p>恵那市地域福祉計画・恵那市地域福祉活動計画素案について 第7章</p> |
| 委員長 | <p>13 地域を全て回って、振り返っていただいた。振り返ることによって地域計画、活動計画が充実したものになっていくと思っている。</p> <p>社会福祉協議会支部の活動は、恵南の5つの自治区の場合、各振興事務所に合併前から社会福祉を担当している職員、嘱託が1人ずついる。そこを中心にして社会福祉協議会の支部の活動ができています。お金を集めるにしても何にしても、その方がやっていると私は認識しているが、旧恵那地区はそういった人がいなくて、2人しかいない振興事務所の職員が兼ねてやっているので、とても負担になっているようだ。市役所の仕事プラス社会福祉協議会支部の仕事なので、やはり8つの地域に1人ずつ配置してくださいとは言わないが、3人ぐらい日割りにして、社協を担当してくれる人員があるとうち少し支部社協が活発になってくるのではと思う。今のようであてがわれた仕事やっただけだと、社会福祉協議会の支部の活動は発展していかないと。予算に関連してしまうことだが、是非そういった人員の配置をされるといいのではと思っている。</p> |
| 委員 | <p>地域ではやっていたが、窓口をたくさん設けていただいて、そういう仕組みが配置されるといいと思う。</p> |
| 委員 | <p>懇談会をやられて、その後振り返り会議を持たれたと認識している。見直しをされているが、実際に地区計画を事業化し、アウトプットをしっかりと出して進行管理をしていく必要があるのではと思う。誰がいつどれぐらいで何をやるというところが見えてこない、絵に描いた餅になる可能性があるので、事業化をしていただいて、進行管理していただくことをこの計画の中に、別添でもいいので入れていただくと見やすいと思う。</p> |
| 委員長 | <p>こうしてはっきりと出していただくと、13 地域、自治区の計画がすごくよくわかるので大変良かったと思う。</p> |
| 委員 | <p>各地区の計画で、地域の課題を見ていくと、地域医療体制の拡充、移動手手段の確保というようなことだった。移動手手段についてはオンデマンドとか、各地域でいろいろやっけて非常にいい事だと思っている。</p> <p>それから民生委員として見て、福祉委員が中途半端だと感じている。私は岩村で、福祉委員もあるが、自治会の充て職のようになっていて、その中で中野方さんなどは福祉委員の方がしっかりやっていると。福祉委員、民生委員のちゃんとした位置づけがない中で、これからどんな体制で各地区でやっていくのかと。計画を見ても、福祉委員を計画する等と書いてあるので、もう少し役割とか位置づけ的なものがあってもいいかと思うので発言した。</p> |
| 事務局 | <p>福祉委員は、現在 13 地域で設置している地域と、わずかだがしていない地域がある。設置してあっても役割がぼんやりしていて、民生委員の動き、見守りをさらに充実させるという意味合いの動き程度ということで、実際問題福祉委員になられても何をやったのかわからないまま1年が終わったという方が非常に多い。なので今言われたように、何か役割をつくるとか、福祉委員の存在をクローズアップする、意義を高める取り組みをそれぞれの地域で、福祉委員が設置してある地域についてはしていく必要があると</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>思う。長島の一部の地域では、民生委員は毎月2回、社会福祉協議会が作成するひとり暮らしの方に配布する“まめなかな”という小冊子があるが、そちらを民生委員だけではなく福祉委員にも配っていただくという取り組みをしたり、あとは定期的に情報交換会を実施したりと取り組みされている地域もあるので、少しでもそういった地域で、我々も地域の情報を掴んでいるので助言をしていきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>各地区の課題を見させていただいて、こういう地区の課題は商工会議所のメンバーである事業者の経済活動で解決ができることがいくつかあるのではないかと思いついて見ている。県に経済産業省の補助金などでは、例えば事業者が買い物弱者や交通手段がない方に対して事業をやると補助金が出る仕組みもある。そういったことで商工会議所も協力ができるのではと思った。</p> |
| 委員 | <p>私は長島の支部長をやっており、福祉委員の話をする、地区によっては充て職みたいな人もいて、何でやらなければいけないという人もいる。長島で住民アンケートを取った時に、やはり自治会は役が多すぎるとか、福祉委員は何するか分からないなどという意見があった。ただ長島では民生委員と福祉委員との懇談を年に何回かやっており、お互いに情報交換をして、どういう人がどこにいる、ということ共有している。いちばん地域のことをご存じである住民が中心になって地域福祉をすすめていきたいなと思っているところ。</p> <p>我々でも一番問題になっているのは、買い物難民。特に長島だと市営住宅、高齢者でひとり暮らしの方が大変多いので、車を持っていないし、なかなか歩いても行けない。では買い物の移動支援をと地域ケア会議でいろいろ意見を出したが、なかなか参入してくれる業者がなかった。買い物難民と呼ばれる人たちに対する支援を、今後市も入って進めていただければありがたい。バスが3月から住宅地に入ってくるらしいので、それは非常にありがたい。中野方のおきもりや飯地のバス等はなかなか難しいところもあると思うが、事業者に入ってやっていただければ、少しでも買い物難民が救えるのではと考えている。</p> |
| 事務局 | <p>いただいたご意見に回答させていただく。旧恵那地区の地域担当者、支部担当者のことについて、こちらについてはずっと長年の課題でこちらもずっと伺ってきていることである。いま、地域の地区担当、支部担当は、社会福祉協議会の事務所にそれぞれ担当があるので、現状でいくと、今の社会福祉協議会の事務所にいる担当者はより今まで以上に深く旧恵那地区の支部の事業に関わっていくということしか申し上げられないのが現実。ただ、将来的にはそれぞれの地区に職員を配置して、その窓口となって事業を進めるというのが理想だと我々も考えているので、その方向に進むよう今後検討進めたい。</p> <p>計画を実のあるものにするということは前回もご助言があったかと思う。予算化することや、実際何をやってどこまでやるのか、今後計画を進行管理していく上できちんと見ていきたいと思う。</p> <p>商工会議所からは前回の会議でもお話があった。地域福祉懇談会は来年度以降も続けていこうと考えている。そこでもっと広い範囲の人のご意見いただくような会にできないかと意見あった。大変ありがたいと思っている。もし状況が許すのであればご参加いただき、進めていきたい。</p> |
| 委員長 | <p>本日はたくさんのご意見をいただいた。地域福祉計画、活動計画よりよいものができるように期待している。この後、3月にもう一度最終的な会議がある。議題は以上である、</p> |

| | |
|--|---------------|
| | 事務局に進行をお返りする。 |
|--|---------------|

3 今後の策定スケジュールについて

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 今後のスケジュールについてご説明する。本日いただいたご意見をできるだけ反映させたものを令和5年2月1日から2月28日までの1ヶ月間、パブリックコメントとして広く市民の皆さんのご意見をいただく。市のホームページの他、中央図書館、各振興事務所にもこの地域福祉計画、地域福祉活動計画の案を置かせていただき、意見を集める。いただいたご意見を反映させたものを、3月上旬から中旬ぐらいの予定で、第4回委員会で最終的な案の確定をさせていただく。 |
|-----|---|

4 その他

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>本日はたくさんの意見を頂戴することができて感謝申し上げます。それぞれの視点で、地域のことから、特に皆さんの総意としてはこの計画を絵に描いた餅にならないようにということだったと思う。是非そういった視点で、進行管理を年に1、2回現状確認や随時見直しも行いながらやっていきたいと思っている。</p> <p>2月にはパブリックコメントをする。また、明日の市議会でもこの策定の進捗状況を報告させていただく。そういったところでいろいろな人に周知をしていくが、総合相談窓口の認知度の低さなどまだまだ課題はたくさんある。各地域の中でもこういった話題を取り上げながら、本当に必要な課題を引っ張り、少しずつでもできることをしっかりやっていきたいので、改めてご協力をお願いします。本日は長時間、ありがとうございました。</p> |
|-----|---|